

・今回のmtgは前回の反省を生かし、余力を残さず出し切れるような関わりをしたいと思ったが、前半部分は陽子さんが牽引してくれて、自然と本音が引き出される形となった。個人的には、「憧れられる存在になる」ことについて、まだまだイメージが曖昧なこと、新しいメンバーとの関わりについても、自分の中に遠慮があることが明確になった。

メンバーから、「よそよそしい」というフィードバックをもらって、はっとした。Mtgでも話した通り、「どこまで頑張れるのか不安がある」というのはその通りなのだが、だからといって今の距離感が優しさなのかというと、そうではないと気付かせてもらった。行動しなければ、関係が変わることはない。そして、自分が10年プロジェクトで活動して成長できたと思っているなら、それは押し付けるべきなのとも思った。

もう1つ印象的だったのは、「何て言っているのかかわからない」も「面倒くさい」も、全ては訓練不足だという陽子さんの言葉だ。どう伝えればいいのか、瞬時に答えが浮かべば、迷わず「言う」という選択になる。それが、良い言葉が浮かばず、ああでもない、こうでもないと迷うから、「言わない」という選択をすることになる。能力が足りていないと、「やる」という選択をする回数がそもそも少なくなっていくのだなあ。

そして、もくもく会を始め、自己研鑽の時間を積み重ねることは、「憧れられる存在」になることに繋がっているという説明も、とてもしっくり来た。行動を真似してほしいというのは、うべや装いではなく、自分という人間の価値観に憧れを抱いてもらうことなのだと思う。

今までは、何か起こっても流してしまっていたことを、言語化することで自分に蓄積されて、価値感が作られていくのだと、個人ボードを始めて実感している。「憧れられる存在になる」ことに対して具体的なステップがイメージできていなかったけど、自己研鑽を重ねて、自分のなりたい姿を目指すこととリンクするのだと思った。

今後のmtgについては、議事録の簡略化と、ファシリテーターの順番制について、提案をさせてもらったが、陽子さんから議題ごとにファシリと議事録を分けてもいいんじゃない？とアドバイスをもらって、どちらもmtgごとと思いついでいた自分の頭の固さを実感した。“話したいことを話す”ための最適な方法を、来月以降も模索していきたいと思った。

最後にメンバーAさんから、GW企画の投稿に対してコメントがなかったことについて、Cさんに質問があった。今日は絶対にこれを聞こうと準備してきたAさんの気持ちが伝わったし、ストレートに質問していたのが素晴らしいなと思った。Cさんの中に、“10年プロジェクトでの自己研鑽とはこうあるべき”というバイアスがあるように思ったので質問を試みたが、宣言する中身より、みんなで参加することを大切に思ってもらいたいなと思った。

今回は事前にこれを話したいという提案が多く、取りまとめが大変だったと思いますが、Cさん、ファシリありがとうございました！今後も“話したいことを話す”mtgをみんなで作っていきたくて思いました。

(E.M 40代女性 埼玉県)

